

香取市学校施設長寿命化計画

平成30年8月

香取市教育委員会

目 次

1	学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	
1-1	背景	1
1-2	目的	2
1-3	計画期間	3
1-4	対象施設	3
2	学校施設の目指すべき姿	4
3	学校施設の実態	
3-1	対象施設一覧	5
3-2	児童生徒数の変化	7
3-3	施設関連経費の推移	8
3-4	学校施設の保有状況	9
3-5	今後の維持・更新コスト（従来型）	12
3-6	今後の維持・更新コスト（長寿命型）	13
4	学校施設整備の基本的な方針等	
4-1	学校施設の長寿命化計画の基本方針	14
4-2	学校施設の規模・配置計画等の方針	16
5	長寿命化の実施計画	
5-1	改修等の優先順位付け	17
5-2	5カ年実施計画	18
6	長寿命化計画の継続的運用方針	
6-1	計画の見直し	19
6-2	情報基盤の整備と活用	19
6-3	フォローアップの実施方針	19

1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1-1 背景

国において、平成 25 年 11 月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」を踏まえ、本市では、平成 28 年 3 月に、公共施設を長期的な視点で、総合的・計画的に管理することを目的として「香取市公共施設等総合管理計画」が策定されました。

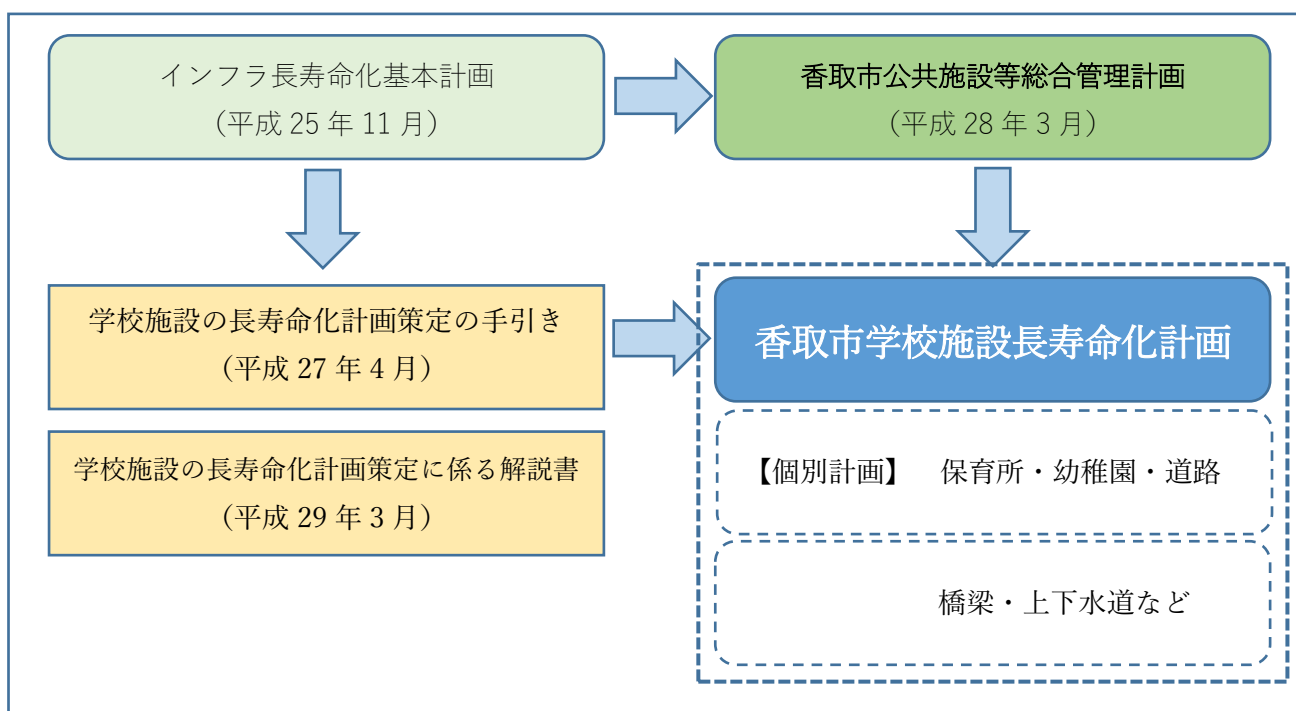
「インフラ長寿命化基本計画」では、個別施設ごとの長寿命化計画（個別施設計画）を策定するよう要請されており、文部科学省においても、各自治体が学校施設の長寿命化計画を策定するにあたり、「学校施設の長寿命化計画策定の手引き」（平成 27 年 4 月）、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（平成 29 年 3 月）が示されました。

香取市の学校施設は、第 2 次ベビーブームによる児童生徒数の増加にあわせ、昭和 40 年代から 60 年代に集中的に整備されていることから、現在では老朽化が進み、近い将来一斉に更新時期を迎えるものと見込まれています。

また、学校施設は、全公共施設面積の半数を占めているため、大規模改修及び建て替えに多額の費用が必要となります。

このため、学校施設の集約化や他施設との複合化を図り、保有面積を適正規模とすることや、建て替えまでの期間を延ばすための適切な維持管理及び改修が求められています。

（参考）計画の位置付け



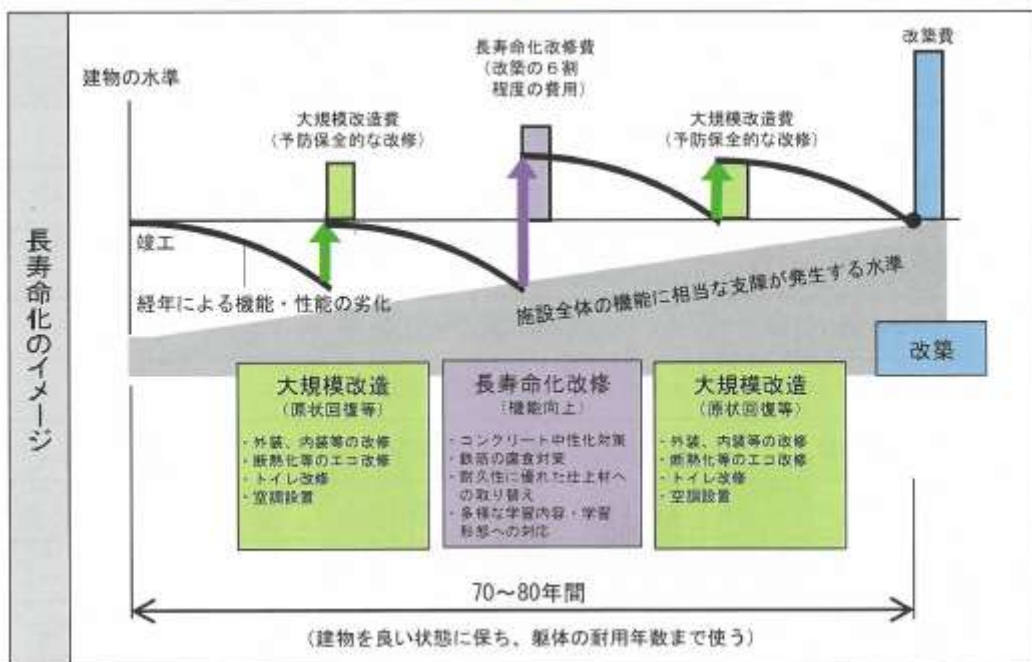
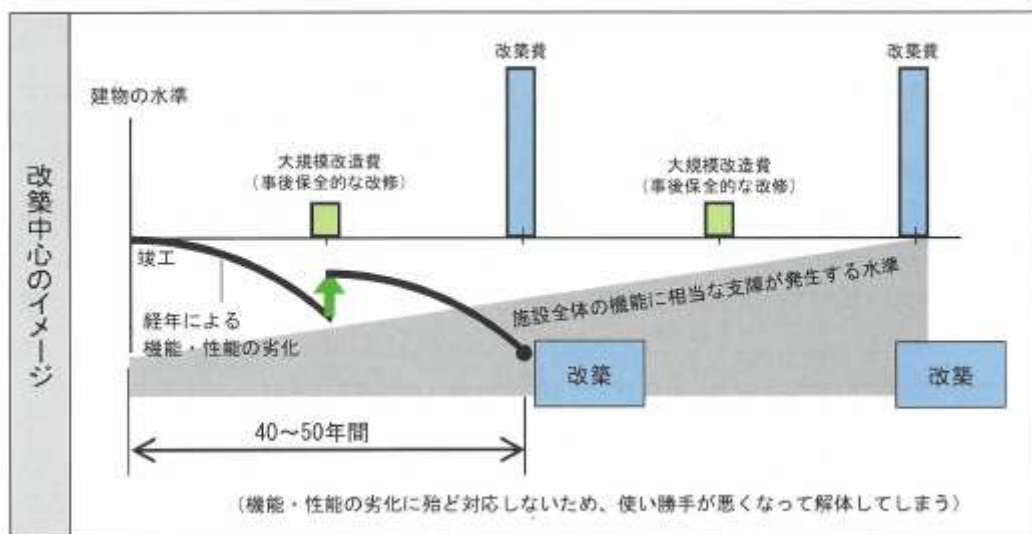
1-2 目的

「香取市学校施設長寿命化計画（以下「本計画」という。）」は、上記の背景を踏まえて、学校施設を総合的観点で捉え、長寿命化が可能な施設については長寿命化することを前提に、適正に改修・建て替えを進めることとし、これに要するコストの縮減と平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保することを目的として策定します。

なお、本計画は「香取市公共施設等総合管理計画」に基づく学校施設の個別施設計画として位置付けるとともに、施設整備計画は本計画に基づき策定していくこととします。

改築中心から長寿命化への転換イメージ

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書



1 - 3 計画期間

本計画の計画期間は、上位計画にあたる「香取市公共施設等総合管理計画」の計画期間を踏まえ、平成 31 年度から平成 60 年度の 30 年計画とします。

1 - 4 対象施設

本市では、平成 22 年 7 月に策定され、平成 27 年に第 1 次改定が行われた「香取市学校等適正配置計画実施プラン」(以下「実施プラン」という。)に基づき、市民協働で学校の再編統合が進められています。

平成 31 年度には、八都小学校、八都第二小学校、府馬小学校、第一山倉小学校、山倉小学校の 5 校が統合することが決定し、山田小学校が開校します。

平成 32 年度には、福田小学校、神南小学校の 2 校が統合することが決定し、旧佐原第三中学校を活用し、わらびが丘小学校が開校します。

このため、本計画の対象施設には、統合が決定している上記 7 校を除き、山田小学校、わらびが丘小学校を加えた以下のとおりとします。

学校施設	施設数
小学校	16 校
中学校	7 校

2 学校施設の目指すべき姿

「香取市教育ビジョン」では、学校施設の整備について、児童生徒一人ひとりに配慮した快適で安全・安心な学校生活が送れるよう整備をし、「生きる力」を育めるような施設機能の整備に配慮することとしています。

また、学校施設は災害時の避難所としての役割を果たすなど、防災機能の充実を図る必要があります。

文部科学省の学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議からの報告を参考に目指すべき姿を次のように示します。

1. 安全性 <ul style="list-style-type: none">○災害対策<ul style="list-style-type: none">・地震に強い学校施設・防災機能を備えた学校施設○防犯・事故対策<ul style="list-style-type: none">・安全で安心な学校施設	3. 学習活動への適応性（続き） <ul style="list-style-type: none">○言語活動の充実<ul style="list-style-type: none">・各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間・自発的な学習や読書活動を促すための環境○運動環境の充実<ul style="list-style-type: none">・充実した運動のできる環境○伝統や文化に関する教育の充実<ul style="list-style-type: none">・伝統や文化に関する教育を行うための環境○外国語教育の充実<ul style="list-style-type: none">・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間○食育の充実<ul style="list-style-type: none">・食育のための空間○特別支援教育の推進<ul style="list-style-type: none">・バリアフリーに配慮した空間・自閉症、情緒障害または ADHD 等のある児童生徒に配慮した学校施設○環境教育の充実<ul style="list-style-type: none">・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール
2. 快適性 <ul style="list-style-type: none">○快適な学習環境<ul style="list-style-type: none">・学習能率の向上に資する快適な学習環境・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また地域の人々がほこりや愛着を持つことのできる学校・バリアフリーに配慮した環境・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間○教職員に配慮した環境<ul style="list-style-type: none">・教職員等の事務負担軽減などのための公務の情報化に必要な ICT 環境	4. 環境への適応性 <ul style="list-style-type: none">・環境を考慮した学校施設（エコスクール）
3. 学習活動への適応性 <ul style="list-style-type: none">○主体性を養う空間の充実<ul style="list-style-type: none">・自発的な学習や読書活動を促すための環境・教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間・社会性を身に着けるための空間○効果的・効率的な施設整備<ul style="list-style-type: none">・習熟度別指導や少人数指導などのきめ細かい個に応じた指導を行うための空間・多様な学習集団・学習形態を展開するための空間・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高める ICT 環境○理数教育の充実<ul style="list-style-type: none">・充実した観察・実験を行うための環境	5. 地域の拠点化 <ul style="list-style-type: none">・安全で安心な学校施設・バリアフリーに配慮した環境・地域に開かれた学校とするための環境・地域の生涯学習の拠点となる学校施設

3 学校施設の実態

3-1 対象施設一覧

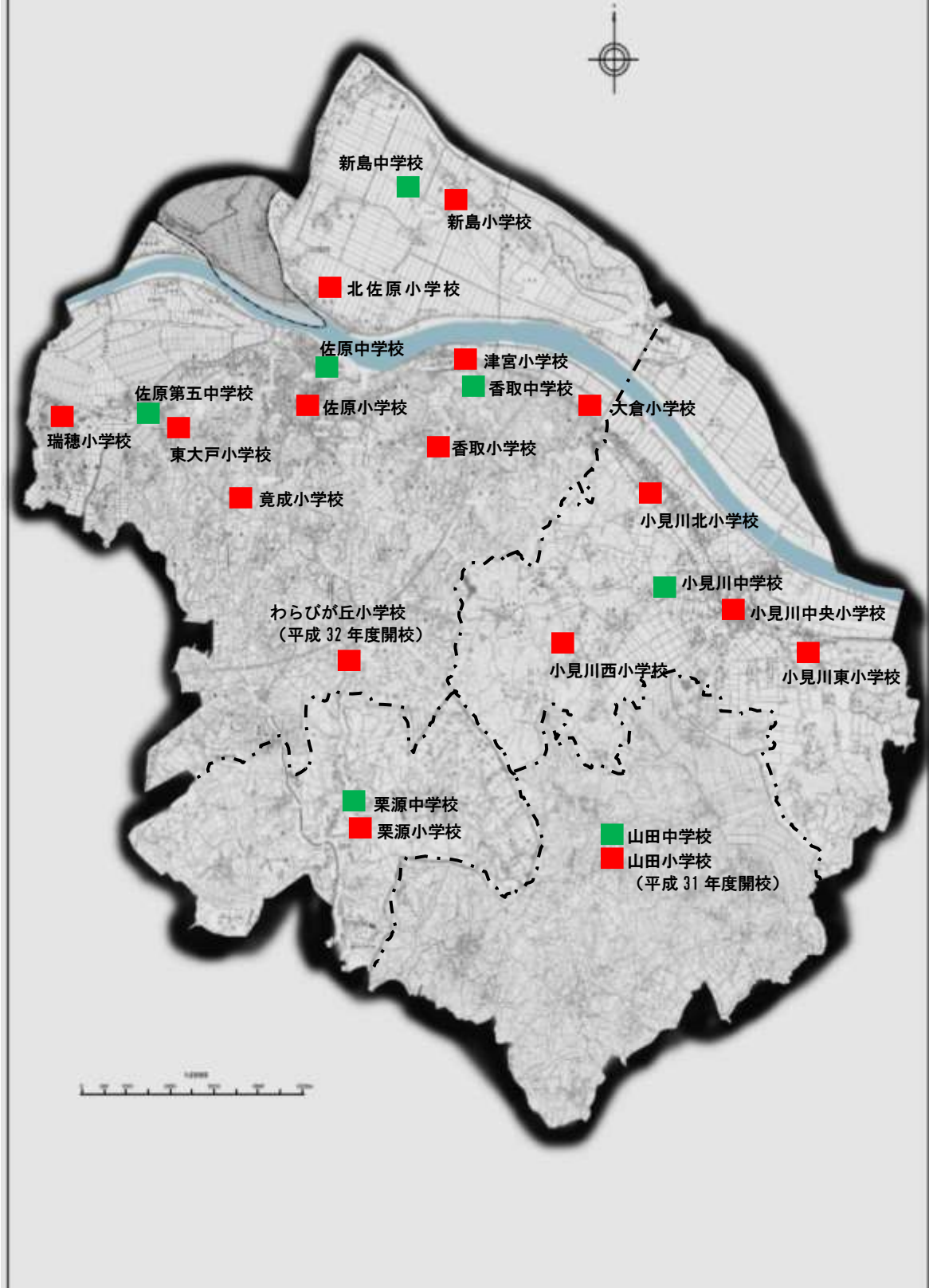
本市には、山田小学校、わらびが丘小学校の開校を考慮すると、小学校 16 校、中学校 7 校の合計 23 校の学校施設があります。小規模な建物（倉庫、部室、概ね 200 m²以下の建物等）を除く小学校全体の延床面積は 66,829 m²、中学校全体は 50,773 m²となり、小・中学校合わせた延床面積は 117,602 m²となります。

(平成 30 年 5 月 1 日時点・建築年度は主たる校舎のもの)

名 称	住 所	延床面積 (m ²)	建築年度	児童生徒数 (人)		学級数 (学級)			
				普通学級	特別支援	普通教室	特別支援		
小 学 校	1	佐原小学校	佐原イ1870	9,453	S40	754	18	24	4
	2	北佐原小学校	佐原ニ1676	2,674	S60	70	3	6	2
	3	東大戸小学校	大戸877	3,084	S43	123	2	6	2
	4	竟成小学校	観音481	3,339	S57	90	4	6	2
	5	香取小学校	香取1875	3,105	S47	62	5	6	2
	6	瑞穂小学校	堀之内1770-96	3,414	S62	125	4	6	2
	7	新島小学校	加藤洲685	2,824	H5	113	4	6	2
	8	津宮小学校	津宮1215	2,685	H1	59	0	6	0
	9	大倉小学校	大倉501	2,091	S46	45	4	6	2
	10	わらびが丘小学校	九美上29-1	3,581	H3	123	4	6	2
	11	小見川中央小学校	小見川94	7,822	S46	506	9	18	2
	12	小見川東小学校	阿玉川728	4,227	S61	106	5	6	2
	13	小見川西小学校	内野35	4,506	S55	169	6	6	2
	14	小見川北小学校	富田800	4,576	S53	193	2	7	1
	15	山田小学校	仁良356-1	5,756	H30	343	6	12	2
	16	栗源小学校	岩部5025	3,692	S59	148	3	6	2
小学校計			66,829			3,029	79	133	31
中 学 校	1	佐原中学校	佐原口2124-1	11,417	S51	596	7	17	2
	2	佐原第五中学校	大戸937	6,747	H9	195	7	7	2
	3	新島中学校	佐原ハ4428	3,327	H24	71	2	3	2
	4	香取中学校	津宮1440	5,491	H15	94	2	3	2
	5	小見川中学校	小見川4685	11,315	S42	536	8	16	2
	6	山田中学校	仁良356-1	7,133	S53	195	2	7	2
	7	栗源中学校	岩部1051-1	5,343	S51	82	3	3	2
中学校計			50,773			1,769	31	56	14
小・中学校合計			117,602			4,798	110	189	45

※山田小学校、わらびが丘小学校の児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在の統合対象校児童数の合計

学校施設の配置状況



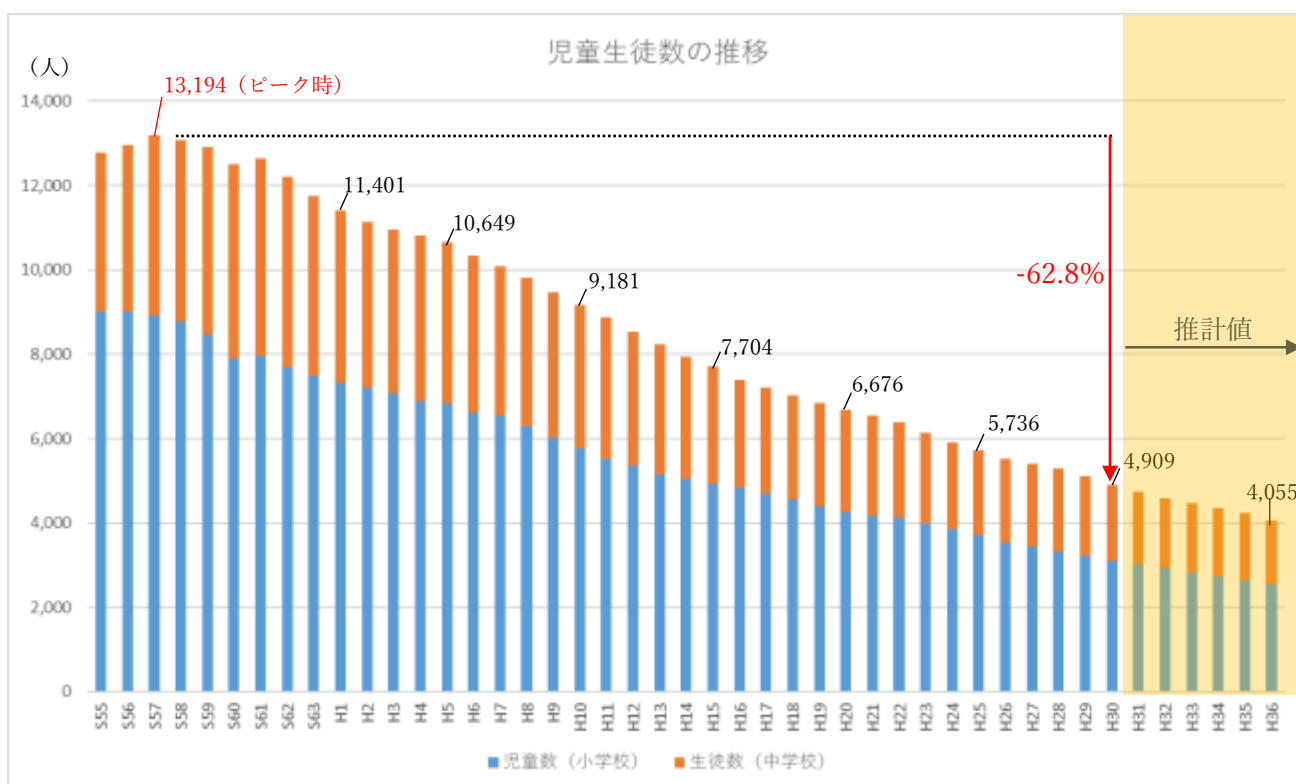
3-2 児童生徒数の変化

香取市の小中学校の児童生徒数は、少子高齢化の影響で年々減少しています。

平成30年5月1日現在の児童生徒数は4,909人（児童数3,109人、生徒数1,800人）で、ピーク時だった昭和57年度の13,194人（児童数8,916人、生徒数4,278人）と比べ、8,285人（62.8%）の減となっています。

さらに住民基本台帳から今後の児童生徒数を推計すると、平成30年4月1日までに出生した子供が小学生以上になる平成36年度には、4,055人まで減少する見込みです。

学校施設のほとんどは、ピーク時の児童生徒数により建築されているため、児童生徒数の減少により、1人あたりの床面積は年々、増加傾向にあります。



3-3 施設関連経費の推移

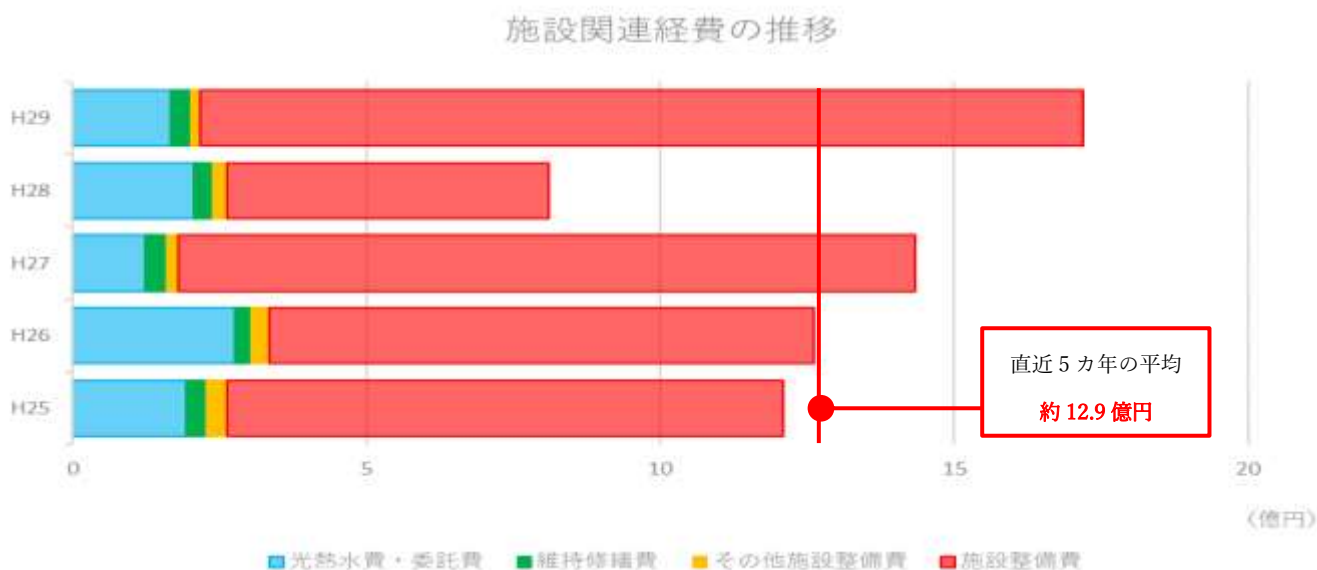
平成 25 年度から平成 29 年度までの直近 5 年間の学校教育施設の施設関連経費は、約 5 億円から 15 億円で、5 年間の平均は約 12.9 億円/年となります。

施設整備費について、本市では、これまで学校施設の耐震化及び体育館の吊り天井等の落下防止対策について、重点的に推進し、平成 27 年度をもって完了しました。

また、学習能率の向上のため、他の自治体よりも先進的に、すべての普通教室へ空調設備を平成 26・27 年度の 2 カ年で計画的に整備してきました。

平成 28 年度からは、小見川中学校校舎大規模改修工事、平成 29 年度からは山田中学校の校舎大規模改修工事、山田小学校の校舎・体育館の建設工事を実施し、すべて平成 30 年度に完了する見込みです。

このほか、平成 29 年度から 5 カ年計画で、小中学校のトイレの洋式化や洋式化に合わせ節水型の衛生器具とすることで環境やバリアフリーに配慮した施設整備を計画的に進めているところです。



(百万円)

	H25	H26	H27	H28	H29	5年平均
施設整備費	947	928	1,254	547	1,503	1,036
その他施設整備費	35	29	20	25	15	25
維持修繕費	35	30	37	32	35	34
光熱水費・委託費	193	275	124	207	167	193
施設関連費合計	1,210	1,262	1,435	811	1,720	1,288

3-4 学校施設の保有状況

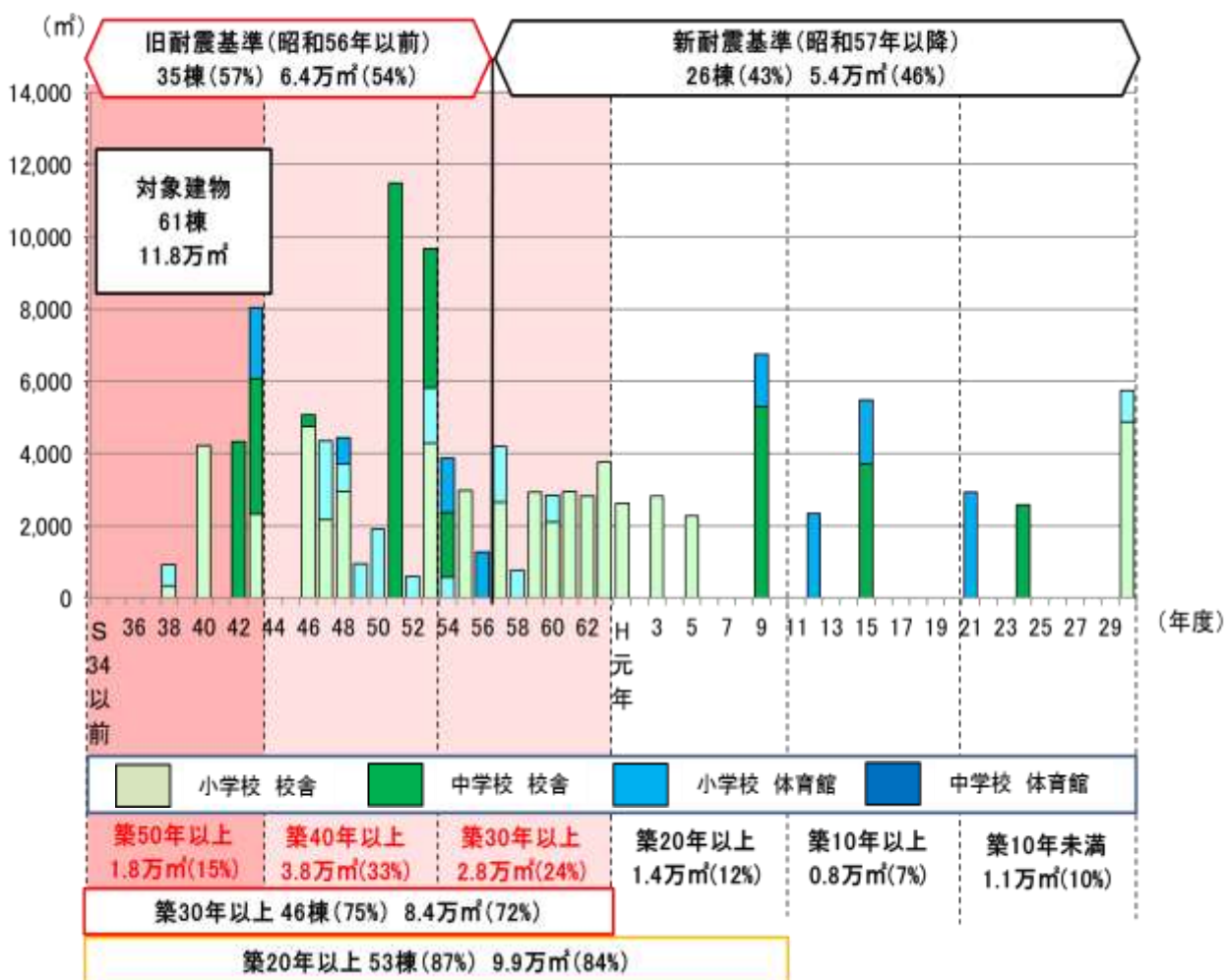
計画対象の小中学校は、築30年以上の建物が8.4万㎡(72%)と、市の施設全体46%(香取市公共施設等総合管理計画策定時)と比較して、小中学校の老朽化は進んでいます。また今後10年間で、9.9万㎡(84%)が築30年以上を経過することとなります。

今後、建て替えや改修を必要とする建物が増加し、膨大な経費がかかる見込みですが、依然として厳しい財政状況の中、従来の築50年程度で建て替える手法では、対応が困難となることが予想されます。

当市においても、すべての学校施設について長寿命化による対応の可能性を検討する必要があると考えられます。

築50年以上を経過する建物が1.8万㎡(15%)ありますが、佐原小学校第1校舎、東大戸小学校校舎、小見川中学校校舎について、すでに棟全体の大規模改修工事が完了し、施設の長寿命化をすでに図っているところです。

築年別整備状況



建物情報一覧表

■:築50年以上 □:築30年以上

基準

2018

番号	施設名	建物名	用途区分		構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	構造躯体の健全性			備考
			学校種別	建物用途				西暦	和暦		耐震安全性			
											基準	診断	補強	
1	佐原小学校	校舎1	小学校	校舎	RC	3	4,225	1965	S40	53	旧	済	済	H24大規模改修(老朽)
2	佐原小学校	校舎2	小学校	校舎	RC	3	3,044	1988	S63	30	新	-	-	
3	佐原小学校	体育館	小学校	体育館	S	2	2,184	1972	S47	46	旧	済	済	H28大規模改修(老朽)
4	北佐原小学校	校舎2	小学校	校舎	RC	3	2,099	1985	S60	33	新	-	-	
5	北佐原小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	575	1963	S38	55	旧	済	済	
6	東大戸小学校	校舎	小学校	校舎	RC	3	2,323	1968	S43	50	旧	済	済	H24大規模改修(老朽)
7	東大戸小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	761	1983	S58	35	新	-	-	
8	竟成小学校	校舎	小学校	校舎	RC	3	2,648	1982	S57	36	新	-	-	
9	竟成小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	691	1982	S57	36	新	-	-	
10	香取小学校	校舎1	小学校	校舎	W	1	339	1963	S38	55	旧	-	-	
11	香取小学校	校舎2	小学校	校舎	RC	2	2,162	1972	S47	46	旧	済	済	
12	香取小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	604	1977	S52	41	旧	済	済	
13	瑞穂小学校	校舎	小学校	校舎	RC	3	2,832	1987	S62	31	新	-	-	
14	瑞穂小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	582	1979	S54	39	旧	済	済	
15	新島小学校	校舎1	小学校	校舎	RC	2	1,533	1993	H5	25	新	-	-	
16	新島小学校	校舎2	小学校	校舎	RC	2	746	1993	H5	25	新	-	-	
17	新島小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	545	1975	S50	43	旧	済	済	H26大規模改修(老朽)
18	津宮小学校	校舎	小学校	校舎	RC	3	2,146	1989	H1	29	新	-	-	
19	津宮小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	539	1975	S50	43	旧	済	済	
20	大倉小学校	校舎1	小学校	校舎	RC	2	1,488	1971	S46	47	旧	済	-	
21	大倉小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	603	1978	S53	40	旧	済	済	
22	わらびが丘小学校	校舎1	小学校	校舎	RC	3	2,818	1991	H3	27	新	-	-	
23	わらびが丘小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	763	1973	S48	45	旧	済	-	
24	小見川中央小学校	校舎1	小学校	校舎	RC	3	3,260	1971	S46	47	旧	済	済	H12大規模改修(老朽)
25	小見川中央小学校	校舎2	小学校	校舎	RC	2	2,944	1973	S48	45	旧	済	-	H27大規模改修(老朽)
26	小見川中央小学校	校舎3	小学校	校舎	RC	2	682	1978	S53	40	旧	済	-	H10大規模改修(老朽)
27	小見川中央小学校	体育館	小学校	体育館	RC	2	936	1974	S49	44	旧	済	済	
28	小見川東小学校	校舎1	小学校	校舎	S	2	424	1978	S53	40	旧	済	済	
29	小見川東小学校	校舎2	小学校	校舎	RC	2	2,944	1986	S61	32	新	-	-	H25大規模改修(老朽)
30	小見川東小学校	体育館	小学校	体育館	S	2	859	1982	S57	36	新	-	-	
31	小見川西小学校	校舎1	小学校	校舎	RC	3	2,977	1980	S55	38	旧	済	済	
32	小見川西小学校	校舎2	小学校	校舎	RC	2	709	1988	S63	30	新	-	-	
33	小見川西小学校	体育館	小学校	体育館	RC	2	820	1975	S50	43	旧	済	済	
34	小見川北小学校	校舎1	小学校	校舎	RC	3	3,186	1978	S53	40	旧	済	済	
35	小見川北小学校	校舎2	小学校	校舎	RC	3	471	1989	H1	29	新	-	-	
36	小見川北小学校	体育館	小学校	体育館	S	2	919	1978	S53	40	旧	済	済	
37	山田小学校	校舎	小学校	校舎	RC	3	4,873	2018	H30	0	新	-	-	
38	山田小学校	体育館	小学校	体育館	RC	1	883	2018	H30	0	新	-	-	
39	栗源小学校	校舎1	小学校	校舎	RC	3	2,937	1984	S59	34	新	-	-	
40	栗源小学校	体育館	小学校	体育館	S	2	755	1985	S60	33	新	-	-	

建物情報一覧表

■:築50年以上 □:築30年以上

基準

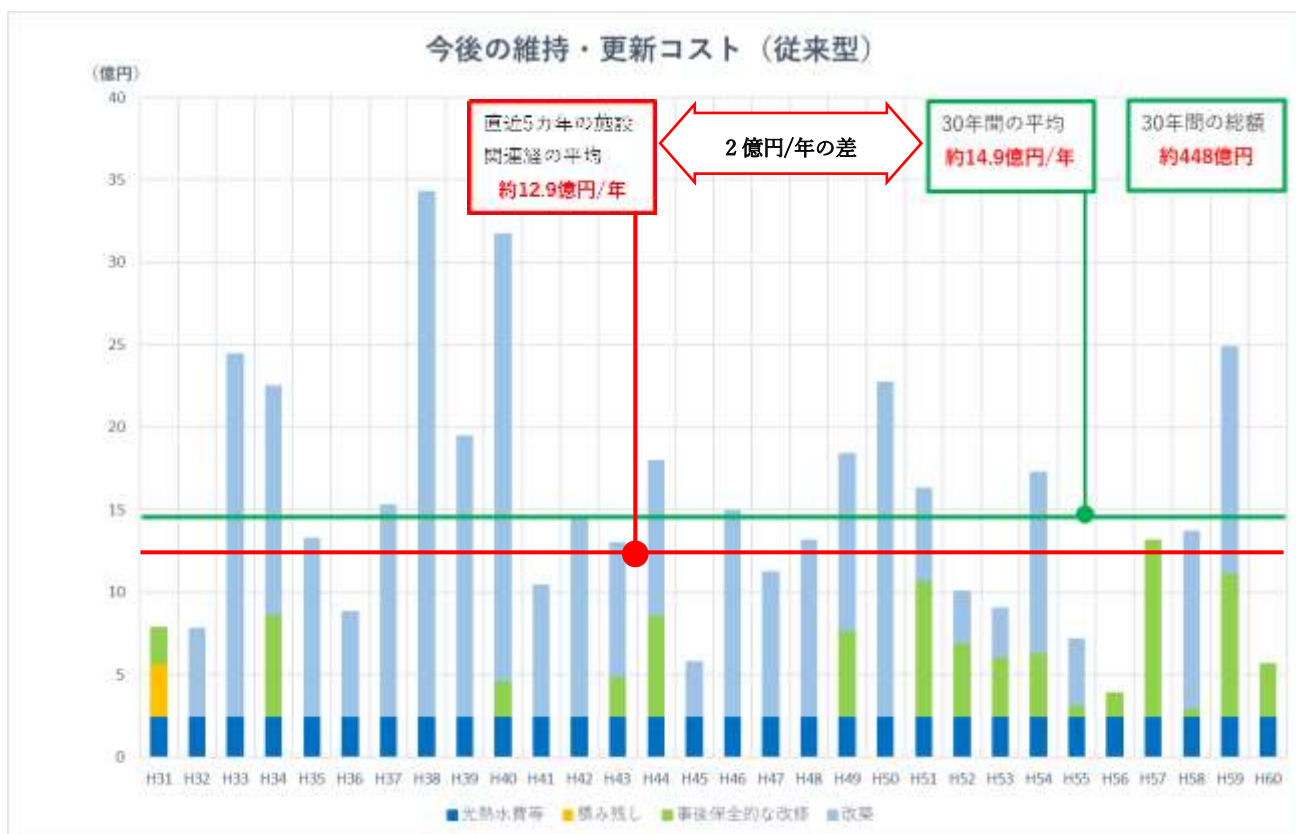
2018

番号	施設名	建物名	用途区分		構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	構造躯体の健全性			備考
			学校種別	建物用途				西暦	和暦		耐震安全性			
											基準	診断	補強	
41	佐原中学校	校舎1	中学校	校舎	RC	4	5,904	1976	S51	42	旧	済	済	
42	佐原中学校	校舎2	中学校	校舎	RC	3	2,575	1976	S51	42	旧	済	済	
43	佐原中学校	体育館	中学校	体育館	RC	2	2,938	2009	H21	9	新	-	-	
44	佐原第五中学校	校舎	中学校	校舎	RC	3	5,283	1997	H9	21	新	-	-	
45	佐原第五中学校	体育館	中学校	体育館	RC	1	1,464	1997	H9	21	新	-	-	
46	新島中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	2,591	2012	H24	6	新	-	-	
47	新島中学校	体育館	中学校	体育館	S	1	736	1973	S48	45	旧	済	済	
48	香取中学校	校舎1	中学校	校舎	RC	2	2,254	2003	H15	15	新	-	-	
49	香取中学校	校舎2	中学校	校舎	RC	2	1,454	2003	H15	15	新	-	-	
50	香取中学校	体育館	中学校	体育館	RC	2	1,783	2003	H15	15	新	-	-	
51	小見川中学校	校舎1	中学校	校舎	RC	4	4,334	1967	S42	51	旧	済	済	H30大規模改修(老朽)
52	小見川中学校	校舎2	中学校	校舎	RC	3	3,752	1968	S43	50	旧	済	済	H30大規模改修(老朽)
53	小見川中学校	体育館1	中学校	体育館	RC	2	1,958	1968	S43	50	旧	済	済	H14大規模改修(老朽)
54	小見川中学校	体育館2	中学校	体育館	S	2	1,271	1981	S56	37	新	-	-	
55	山田中学校	校舎1	中学校	校舎	RC	3	2,156	1978	S53	40	旧	済	-	H30大規模改修(老朽)
56	山田中学校	校舎2	中学校	校舎	RC	3	1,695	1978	S53	40	旧	済	済	H30大規模改修(老朽)
57	山田中学校	校舎3	中学校	校舎	RC	2	1,781	1979	S54	39	旧	済	-	H30大規模改修(老朽)
58	山田中学校	体育館	中学校	体育館	RC	1	1,501	1979	S54	39	旧	済	済	H26大規模改修(老朽)
59	栗源中学校	校舎1	中学校	校舎	RC	3	3,010	1976	S51	42	旧	済	-	
60	栗源中学校	体育館	中学校	体育館	RC	2	2,333	2000	H12	18	新	-	-	

3-5 今後の維持・更新コスト（従来型）

小中学校施設を築50年で建て替える従来方法とした場合、今後30年間のコストは約448億円（約14.9億円/年）かかる見込みです。これは、直近5年間の施設関連経費約12.9億円を上回ります。特に、平成33年度以降は築50年を経過する建物が増加することから膨大な建て替え費用が継続的に必要となります。

建て替え中心の整備を実施することは、当市の財政状況からみて、非常に困難と言え、対応策を検討する必要があります。



【従来型のコスト算出条件】

築50年で建て替えを実施、建て替え後、20年で事後保全的な改修を実施、すでに棟全体の大規模改修工事を実施済みの建物については、改修工事後20年で事後保全的な改修を実施することとし試算を行った。

建て替えに係る単価は、当市の実績から校舎37万円/㎡、体育館33万円/㎡とした。

事後保全的な改修に係る単価は、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」を参考に、校舎は9.25万円/㎡（建て替え単価の25%）、体育館は7.26万円/㎡（建て替え単価の22%）とした。

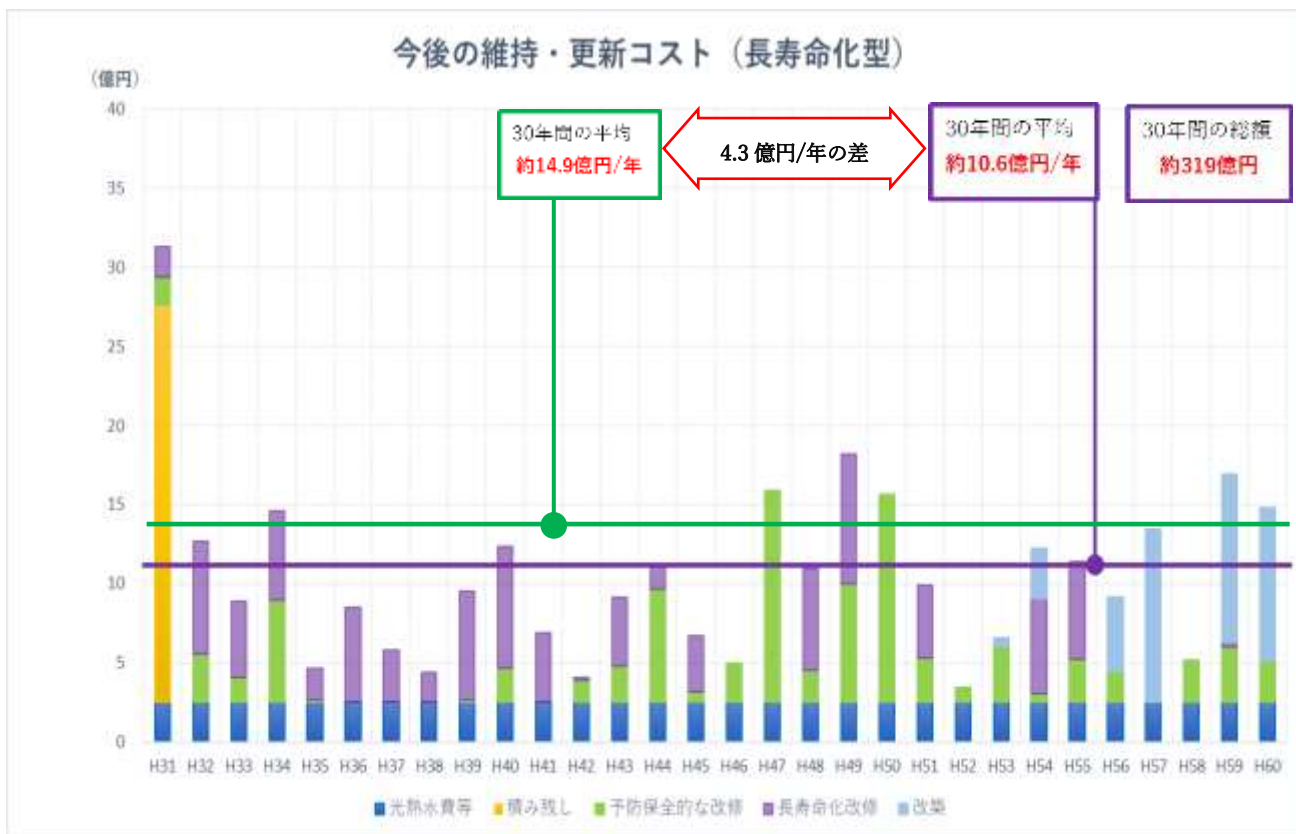
1,000㎡を超える校舎の建て替えは2カ年計画とし、1年目に費用の30%、2年目に70%を計上した。

3-6 今後の維持・更新コスト（長寿命型）

建て替え中心から改修による長寿命化に切り替えていくためには、計画的に機能向上と機能回復に向けた修繕・改修を建物全体でまとめて実施する必要があります。

長寿命化により、従来型の 50 年から 80 年に建物を長寿命化した場合、今後 30 年のコストは約 319 億円（約 10.6 億円/年）かかる見込みです。

従来型の約 448 億円（約 14.9 億円/年）と比較し、約 129 億円（約 4.3 億円/年）、約 28.8%の経費縮減が期待されます。



【長寿命化型のコスト算出条件】

築後 20、60 年で予防保全的な改修、40 年で長寿命化改修を実施し、築 80 年で建て替え、すでに棟全体の大規模改修工事を実施済みの建物については、改修工事後 20 年で予防保全的な改修、40 年で建て替えを実施することとし試算を行った。

建て替えに係る単価は、当市の実績から校舎 37 万円/㎡、体育館 33 万円/㎡とした。

長寿命化改修に係る単価は、学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」を参考に、校舎は 22.2 万円/㎡（建て替え単価の 60%）、体育館は 19.8 万円/㎡（建て替え単価の 60%）とした。

予防保全的な改修に係る単価も同様に、校舎は 9.25 万円/㎡（建て替え単価の 25%）、体育館は 7.26 万円/㎡（建て替え単価の 22%）とした。

1,000 ㎡を超える校舎の長寿命化改修及び建て替えは 2 カ年計画とし、1 年目に費用の 30%、2 年目に 70%を計上した

4 学校施設整備の基本的な方針等

4-1 学校施設の長寿命化計画の基本方針

今後の維持更新コストからも建て替え中心の従来型よりも、長寿命化型の方が、コストの低減及び平準化を図ることが可能と見込まれます。

文部科学省では、長寿命化改修を実施するための国庫補助事業として「長寿命改良事業」を平成25年度に創設しました。

これまで建物の大規模な改修工事には「大規模改造（老朽）事業」を活用し、当市の財政負担の軽減に努めてきました。築年数40年以上で、改修後の使用年数が30年以上と見込まれる建物については、「長寿命化改良事業」を積極的に活用していくことにより、財政負担を大幅に低減することが可能となります。

長寿命化改良事業の補助制度（大規模改造（老朽）事業との比較）

	長寿命化改良事業	大規模改造（老朽）事業
趣 旨	建物の耐久性を高めるとともに、現代の社会的要請に応じた施設への改修	経年により、通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置等
補助割合	33.3% (1/3)	33.3% (1/3)
地方財政措置	40.0%	15.0%
実質的な地方負担	26.7%	51.7%
上限額	なし	2億円
下限額	7,000万円	7,000万円
基礎配分単価	改築単価（約19万円/㎡）×60%	改築単価（約19万円/㎡）×53%
築年数	40年以上	20年以上
使用予定年数	30年以上	30年未満でも可
改修範囲	原則建物一棟全体 ※更新済みのものや将来、計画的に更新することが決まっているものは除く	内部・外部のいずれかの施工割合が70%以上、もう一方が50%以上
構造体の長寿命化	必ず実施	実施しなくてもよい
ライフラインの更新	必ず実施	実施しなくてもよい
その他長寿命化に必要な工事	必ず実施	実施しなくてもよい

「香取市公共施設等総合管理計画」では、施設長寿命化対策と予防保全による改修、建て替えコストの低減及び平準化を検討することとされています。

本計画では、今後の学校施設管理において、築40年を目安に躯体の健全性の詳細調査を随時実施し、長寿命化改修が可能な建物は長寿命化改修工事を実施することで80年に長寿命化し、詳細調査の結果から長寿命化が困難である場合は、築50年を目安に建て替えすることを基本方針とします。

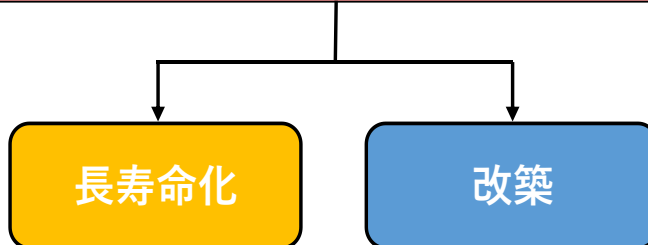
また、改修または建て替え後20年を目安として、劣化や損傷が軽微な早期段階に適切な予防保全対策を実施し、突発的な不具合を未然に防ぐことで、建物の長寿命化を行うものとします。

長寿命化の判定フロー

躯体の詳細な調査			
	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	鉄骨造	木造
調査	現地目視調査及び材料試験	現地目視調査	現地目視調査
評価項目 (例示)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート圧縮強度 ・中性化かぶり ・鉄筋かぶり厚さ ・鉄筋腐食状況 ・屋上・外壁の漏水状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋かいのたわみ ・鉄骨腐食状況 ・非構造部材の取付部・設備・二次部材安全性 ・屋根・外壁の漏水状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・土台・柱・梁の腐朽 ・柱・梁の傾斜 ・床のたわみ、床鳴り ・屋根・外壁の漏水状況



躯体の詳細な調査に加えて経済性や教育機能上などの観点から総合的に判断する



学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書より抜粋

4-2 学校施設の規模・配置計画等の方針

少子高齢化による児童生徒数の減少に伴い、市内の小中学校の小規模化が急速に進んでいます。当市の学校施設の規模・配置計画等については、「実施プラン」において方針付けがなされています。

国では、小学校・中学校ともに全校で12学級から18学級の学校を適正規模としています。

実施プランでは、学校規模について、許容できる小規模校の下限を、小学校では1学年当たり20人程度、全校で120人程度、中学校では各学年2学級、全校で6学級以上としています。

本計画の対象施設とした学校で120人以下の小学校は7校、6学級未満の中学校は3校あり、学校の再編について早急な検討が必要となります。

また、実施プランでは、学校の再編については規模だけではなく適正配置からの検討の必要性について重視することとされています。

本計画にあっては、学校再編による学校施設の集約化や、適正配置の観点から再編が困難な学校にあっては他施設との複合化や減築等による必要面積での再整備の検討が重要となってきます。

香取市の小規模校の下限

小学校	1学年の児童数は20人程度 学校規模は120人を超える程度	中学校	学校規模は各学年2学級以上
-----	----------------------------------	-----	---------------

国と香取市の小中学校の適正規模の考え方

学校規模	過小規模	小規模	統合の場合の適正規模		大規模
			適正規模		
小学校(学級数)	1～5	6～11	12～18	19～24	25～30
中学校(学級数)	1～2	3～11	同上	同上	同上
香取市の規模の考え方		下限規模 ※中学校の下限規模は、6学級	適正規模	上限規模	

香取市学校等適正配置計画実施プラン第1次改定版より抜粋

5 長寿命化の実施計画

5-1 改修等の優先順位付け

既に築年数 40 年を経過している建物があるほか、本計画期間中に、ほとんどの建物が築年数 40 年を順次経過していくこととなります。

このため、整備にあたっては、費用対効果を念頭に計画的に実施していく必要があります。

本計画の基本方針に基づき、築年数が 40 年を超えた建物から、長寿命化改修の検討をすることとします。

長寿命化改修であっても、相当の費用を要するため、今後も学校施設として活用されることが求められます。このため、実施プランで定める適正規模、小規模校の下限を超える学校を優先的に整備することとします。

これまで、実施プランに基づき、市民協働による学校再編が進められていますが、学校の再編の際には、これまでも必要な施設整備・改修を実施してきました。

学校再編においては、必要な施設の整備による教育環境の改善のほかに、学校の小規模化による課題の解消を図るという面からも教育環境の向上が期待されます。

このため、再編統合の決定時点で学校施設の整備・改修が必要となるものを最優先に実施することとします。

また、学校の立地条件や利用条件により、同じ築年数であっても老朽化の度合いは異なります。

これまで劣化・損傷個所の部分的な修繕工事をその都度、実施してきましたが、今後、屋根や給排水設備などの部位ごとの改修を長寿命化改修前にあらかじめ実施する必要性が生じることが想定されます。

現在のところ緊急的な部位改修が必要な施設について該当はありませんが、緊急的に部位ごとの改修を実施する必要性が生じた場合にも、学校生活への支障が最小限となるよう優先して実施することとします。

5-2 5カ年実施計画

平成31～35年度までの今後5年間の計画は、上記の改修の優先順位付けを踏まえ、築年数40年を経過した学校施設について、長寿命化改修を実施することとします。

事業実施にあたっては、直近5年間の施設関連経費の平均である13億円/年（≒12.9億円/年）以内でコストの平準化をしていくことを基本とし、第2次香取市総合計画の目標値である4棟の長寿命化改修を実施することとします。

なお、改修にあたっては、国の補助金や合併特例債等の起債を適切かつ効果的に活用し、財政負担を軽減するとともに、放課後児童クラブ等の他施設との複合化や施設の除却等を検討し、現状の児童生徒数に見合った保有面積を確保しつつ、将来の維持管理や改修に係るコストの低減を図っていきます。

また、学校施設が、長期間健全な状態で保たれるよう、これまでの事後保全から予防保全による改修へ転換していきます。

H31	H32	H33	H34	H35
学校統合施設改修				
トイレ洋式化改修	トイレ洋式化改修	トイレ洋式化改修		
空調（騒音対策）				
長寿命化改修 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">詳細調査</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">実施設計</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">長寿命化改修</div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">コストの平準化を図りながら 4棟実施</div>				
必要に応じ緊急的な部位改修				

6 長寿命化計画の継続的運用方針

6-1 計画の見直し

本計画については5年ごとに見直すことを基本とし、本市の財政状況や制度変更等に合わせて適宜見直しを行うこととします。

また、5カ年実施計画については、学校施設の劣化状況や学校再編の状況を常に注視し、随時見直しを行うこととします。

6-2 情報基盤の整備と活用

学校施設の基本情報、工事履歴や劣化状況等を一元管理することにより、施設の長寿命化を計画的に進めることとします。

また、定期的実施している建築基準法第12条に基づく定期点検結果や定期点検等の対象となっていない箇所についても併せて点検を行うことで、施設の老朽化状況の実態を常に把握し、予防保全型の施設管理に活用していきます。

6-3 フォローアップの実施方針

本計画は、5年ごとに見直すことを基本としていますが、今後、長寿命化改修や建て替えが本計画期間中に継続的に進められていく見込みです。

計画期間中であっても、適切にフォローアップを行うことにより、より効果的、効率的な学校施設整備を進めていくことが必要です。

このため、工事単位ごとにPDCAサイクルに沿った進捗管理を実施し、計画へ反映していくこととします。

